

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	432	3年	前期	臨床検査学科	必修	臨床免疫学実習 Practice in Clinical Immunology	45	1
担当教員								
山田 武司	田野 ゆづき							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
まず基本的な抗原抗体反応を実習し、それらを利用した検査法の原理と基本的手技を習得するとともに、感染症診断をはじめとする各種抗原、抗体測定に免疫学的検査法が利用されていることを理解する。さらに、免疫細胞の機能検査についても学び、結果の解析と評価について学修する。								
到達目標（授業目標）								
基本的な試験管内抗原抗体反応を学び、それらを利用した検査法の原理と基本的手技について修得する。また感染症診断をはじめとする各種抗原、抗体測定に免疫学的検査法が利用されていることを知ると共に、医学検査領域における免疫検査学分野の重要性を理解する。								
① ゼラチン凝集法の操作と判定が確実に実施できる。								
② 比濁法の測定が確実に実施できる。								
③ イムノクロマトグラフィーの操作と判定が確実に実施できる。								
④ 蛍光抗体法操作と判定が確実に実施できる。								
⑤ リンパ球の分離とフローサイトメトリーが正しく確実に選定できる。								
⑥ 検査結果の解析と評価が正しくできる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								

授業概要	<p>1～2回：免疫学的検査・免疫検査の基礎技術（検体採取と保存）、免疫化学的定量法（ELISA法）など</p> <p>3～4回：感染症の検査・ゼラチン凝集法によるHIV抗体スクリーニング検査、イムノクロマトグラフィー法によるHBs抗原検査など</p> <p>5～6回：炎症と炎症マーカーの検査・CRP検査および血清アルブミン測定など</p> <p>7～8回：腫瘍と腫瘍マーカーの検査・腫瘍マーカーの測定（hCGなど）</p> <p>9～10回：アレルギー疾患の検査・総IgEの測定など</p> <p>11～13回：自己免疫疾患の検査・蛍光標識抗体法による抗核抗体の検出</p> <p>14～16回：免疫グロブリン異常症の検査・免疫電気泳動法によるM蛋白の同定</p> <p>17～18回：補体系の検査・溶血反応による血清補体価(CH50)の測定</p> <p>19～22回：免疫機能検査・リンパ球サブセット検査、フローサイトメトリー法など</p> <p>23回：検査結果の解析と評価・検査結果の解析と評価方法について</p>
------	---

成績評価方法及び基準

レポート（100%）により評価する。60点以上を合格とする。

教科書	加藤亮二・利光央・編「免疫検査学実習書」（医歯薬出版）、配布プリント
-----	------------------------------------

参考図書等	JAMT「臨床免疫検査 技術教本」（丸善出版）、窪田哲朗・編「免疫検査学」（医歯薬出版）、必要に応じてプリントを配付す
-------	---

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

実習の入る前に、項目ごとに作業内容について必ず予習する。実習レポートは課題も多く、授業時間内に終わらないため授業時間外でも作業を行う。

関連科目

前科目	430	免疫学	431	臨床免疫学					
後科目	433	輸血移植検査学	434	輸血移植検査学実習					

実務家教員


備考	実習項目の変更および順番が変更になることがある。
----	--------------------------